

日本：日銀が大規模な金融緩和策を解除、17年ぶりの利上げ実施を決定

- 日銀は大規模金融緩和策を解除へ、新たな枠組みを発表
- 事前の観測報道もあり市場は今回の決定を織り込む
- 今後、断続的に利上げが行われるかが焦点

■ 日銀はマイナス金利を解除

日本銀行は18-19日の金融政策決定会合で、大規模金融緩和策の解除を決定しました。マイナス金利を解除し17年ぶりに利上げを実施しました。政策金利には無担保コールレートを0-0.1%で設定しました。また、長短金利を操作するイールドカーブ・コントロール（YCC）の撤廃、ETF及びJ-REITなどのリスク性資産の新規買い入れの終了を決定しました。8年間続いた異例の大規模金融緩和政策に終止符が打たれました。また、国債の買い入れは継続し「これまでと同程度の金額」を行うとしました。日本銀行当座預金（所要準備額相当部分を除く）に0.1%の付与金利を適用（図1）。声明は、賃金と物価の好循環の強まりが確認され、物価安定の目標の実現が見通せる状況に至ったと今回の決定の背景を説明しました。また、年内の追加利上げへの示唆はなく、「当面は緩和的な金融環境が継続する」と表明されました。今回の会合は金融政策正常化に向けての大きな歴史的転換点となり、日銀は今後新たな政策の枠組みを模索していくことになります。

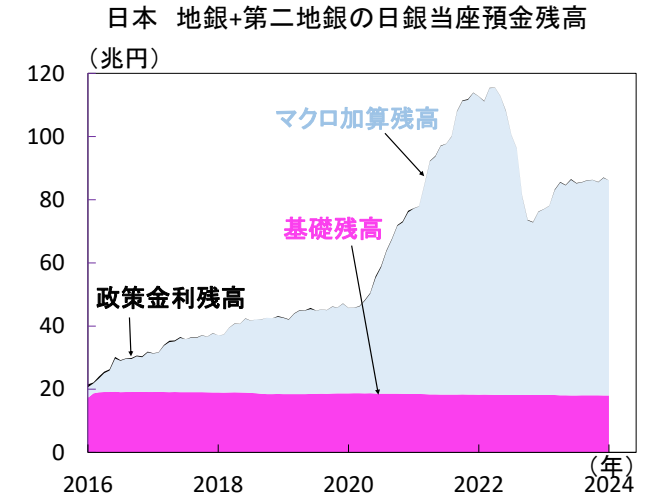
■ 金融政策の正常化は事前報道通り

15日、連合は2024年春闘の第一回回答の集計結果を公表。賃上げ率は+5.28%と高水準となり、日銀が大規模緩和策を解除する環境は整ったとの見方が強まりました。日本経済新聞は16日に、日銀が3月会合にてマイナス金利解除とYCC撤廃を行う方針であると報道。市場は今回の結果を織り込んでいたことから19日の金融政策決定会合での決定を受けて長期金利は低下（図2）しました。為替市場ではドル円が1ドル=150円台を付けるなど円安が進行、日経平均株価は反発しました（図3）。

■ 今後日銀が断続的に利上げを行うか注目

日銀の政策決定を前に長期金利は一時0.8%に上昇し、2023年末以来の高水準となりました。短期金利についても、日銀によるマイナス金利解除やその後の利上げを織り込む形で大幅に上昇しました。日銀による利上げが実際に継続的に実施されるかについて今後の日銀の発表や植田総裁の発言が注目されます。次回、4月25-26日の日銀金融政策決定会合では経済・物価情勢の展望（展望レポート）が公表され、景気や物価の見通しが注目されます。（本江）

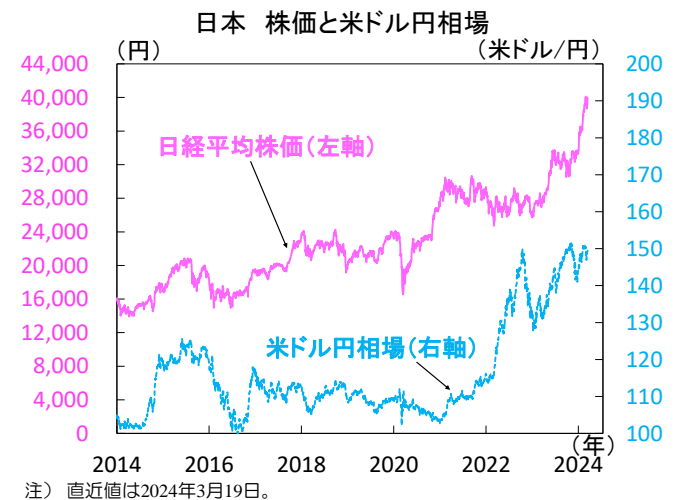
【図1】日銀の当座預金残高への付利は一律0.1%へ



【図2】政策修正を受けて金利は低下



【図3】金融政策決定会合後も株価は上昇



本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘を使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会